

# ひんがし の広場

♡募集しています♡

イラストやマンガ  
短歌・俳句・詩・随筆  
サークル・グループ紹介  
お子さんの写真  
町への意見や要望など

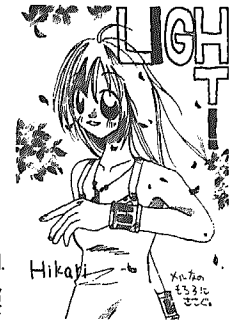
## 応募先

〒950-1196  
黒埼町大野2843-1  
黒埼町役場 広報くろさき係  
(匿名でもよいですが、  
連絡先を忘れずに)

## 問い合わせ

総務課 総務係 ☎377-3101

## イラスト



PN鬼哭  
Hikari



永田 愛美

## 随筆

茄子漬けと亡き母のこと  
大橋 京子

蝉時雨の絶え間のない夏の  
間、毎朝家族の為に、食卓にの  
ぼった茄子漬けは、今のよう  
みょうばんもなく、母が釘を  
山入れて漬けたものだ。夏  
夏の代名詞のような茄子漬け  
は、どこの家も味わい深い宝の  
母の味であった。  
ちよっとしょっぱくて、水っ  
ぼくて、母の手に委ねられると、  
押しが効いて程良くおいしく漬  
けられた。  
毎朝毎朝いっぱい食べた。  
田舎の人が売りに来るのを、  
昔だから、一山もある茄子を、  
30円とか、50円で買って漬ける  
のである。  
私は今迄主婦になって、茄子  
漬けを漬けた事が無いに等しい  
のである。そういう意味からも、  
色々な面からも母を超える事が  
出来ないでいる現在である。  
母はよく「苦労しなれば一  
人前になれない」とか、「態度  
に出すうちはまだまだ」とか、  
私を叱咤してくれた。

私の母は茄子漬けも上手だ  
が、懐の深い人であった。  
私が23才頃、花屋に勤めてい  
たある朝、花屋の奥さんに水切  
りをして貰った時、「ごみ箱が汚  
い」と一喝されたのである。  
私は家に帰って、その事を母  
に、朝から花屋の奥さんに護美  
箱が汚いと怒られて、頭に来た  
と、同情を求めたのであった。  
母はすかさず、強い口調で、  
「お前も、嫁にもらいに来れば  
明日明日、嫁に行かなきゃない  
年頃だ!花屋の奥さんの言う通  
り、明日から護美箱をピカピカ  
に磨いて置け」と、かえって怒  
られたのであった。  
私はその時、母を思ひに思い、  
強く尊敬したのである。  
60才で母は淋しく他界してし  
まったが、正しい生き方のであ  
る。親の意見と茄子の花は千に  
一つも無駄がない。とか親の意  
見と冷や酒は後から効くと言わ  
れている通り、年々歳と共に効

力強く浸透してくるのである。  
尊敬する母を、越えられない  
まま、教えるの一つである鏡を氣  
付いた時に、母を偲びながら大  
切に、精一杯磨いている昨今で  
ある。  
フロックス忌  
主 婦  
さだかでないがあの年の夏も  
今年の夏のように猛暑だった氣  
がする……  
昨日までの土砂降りが一転し  
て朝から太陽が照りつけテレビ  
の氣象情報では新潟地方の梅雨  
明け宣言をしていた。真夏日が  
続き道端の木や草の葉は土ぼけ  
りを被ってぐったりと首を投げ  
かけ長く床についでいた病人は  
暑さに耐え切れずに逝く、私の  
父が逝った日は土用の暑い晩  
だったが十七歳の兄が逝った日  
も立秋すぎとはいえ暑い晩のよ  
うだった。  
兄が逝った日は昭和十七年八  
月十日の夜半で新潟市内にある  
K病院だった、当時六歳の私は  
兄の顔は写真でしか覚えておら  
ず兄が逝く数日前水玉模様の上  
そゆきよりのワンピースを着て  
四番目の姉に連れられ電車に乗  
るため榛の木の前へ川前へゆく  
道を歩いていたら近所のかあ  
ちゃんに出あいもぎたてのマク  
ワウリをもらったこと、そして  
病院のベットの所で注射の跡に  
白い絆創膏がいっぱい貼られて  
いた兄の腕と夜姉たちが泣きな  
がら神棚を拝んでいたことしか

思い出せない。  
女ばかり三人の後の男の子だ  
から父はうれしかっただろう、  
草花のすきだった兄が頭を五分  
刈りにして縞の山着を着て新潟  
市の白山公園内で写った写真が  
ある、神社の祭礼に出かけては  
草花の苗を買ってきて前庭に植  
えたという、盆の十日頃には兄  
が植えた濃い赤紫色したフロク  
クスとカノコユリが満開となる、  
夜になると母は家の全部の戸を  
開け放って兄の姿を探すかのよ  
うに前庭をじっと眺めていた。  
兄の死因は今でいう急性盲腸炎  
に腹膜炎併発しての死だった。  
兄の死について父は「国のた  
めに戦争にいつて死んだのなら  
あきらめもつくだが」と  
いつていた、女ばかり五人も元  
氣にいて戦時中のこととて肩身  
がせまかったのだろう、兄の死  
後も盆がくるたびにフロックス  
は満開の花を咲かせ続けた。  
結婚して子育てから解放され  
た私は兄とフロックスが忘れら  
れずことあるごとに市日や草花  
屋の店さきを深く歩いたがあの  
濃い赤紫色したフロックスに出  
あいに歳月だけが過ぎていた、  
数年まえ私は夏祭りまで賑わう白  
山神社境内の植木や草花を売る  
店さきで夢見ごちで赤紫色し  
たフロックスを眺めていた。  
夏が来て私の家に用事にこら  
れる人たちは満開のフロックス  
を見てはきれいな花だとほめて  
くださる、そのたびに私は兄の  
話をしては涙分けをする、三、  
四年前のこと新潟日報誌を配達

## 俳句

黒埼俳句会

熱帯夜地震のニュースまた流る  
文雄  
草原をすべりて疾し夏の露  
義男  
人声の集まってくる合歡の花  
律子  
穂孕みの田の明るさと安らぎと  
悦女  
近づいて風の見え来し青芒  
けんじ  
消え失せる町の名近し秋に入る  
智恵子  
山帰り真紅に洋装赤とんぼ  
鹿嶋 十一

## 短歌

黒埼短歌会

しておられたAさんと知り合  
私はまた兄の話をしてずうずう  
しくもAさんの御主人がボラン  
ティアとして管理しておられる町  
の図書館脇の庭に兄がこの世に  
生を受けた証にフロックスを一  
株植えさせてほしいとお願  
した所心よく受けてくださった。  
スーパーへ買物に行くたび遠  
まわりをして金巻の下道を通  
る、図書館まえになると私は自  
転車をとめ、フロックスにむ  
かって小声で「今日もあつちい  
なるよ」と一人ごとをいう。  
うだるごとき一日の夕べ外に出  
れば青柿の実は早や太りおり  
小出 美喜子  
霧深き中を朝日の昇り来て煙る  
川面は出湯のごとし  
永田 キヨエ  
沈む陽は雲を茜に染めておりこ  
の新潟も梅雨は明けけるか  
長谷川 トリ  
涼風が青き稲田をゆする道我は  
背筋をのびして歩かん  
柴垣 きみ  
弥陀は父縁は母と法要に聞きて  
生きゆく力賜わる  
大谷 モト  
軒先にぶさぶさとした葉もみて  
梅雨の晴れ間の山形路行く  
丸山 幸

公園の草とる我に畑より枝豆持  
ちて礼にいくる  
上山 恵子  
爪を染め紫蘇もみながらくりや  
辺に短歌考える幸の時  
笠原 セツ  
味噌汁の冷めない距離に娘はい  
ると一人ぐらしの己れ励ます  
泉井 ヨ子  
自転車速度ゆるめて降る雨に  
散りしざくろの朱を目にとむ  
阿部 浄子  
夏バテに身の置き所なく絵手紙  
の青き蛙に氣力を貰う  
全内 セツ  
紫陽花のかげより蛙鳴き出して  
あつき夕べを心和めり  
大矢 キイ

露草に露の重さのありにけり  
講師  
信濃川早濁りといふべきか  
富代  
夕風や小木の港のたらひ舟  
敏郎  
町の名の消えゆく年の揚花火  
秀子  
赤蜻蛉むかし獄舎の煉瓦塀  
俳佐子  
植木鉢傘をさしやる大暑かな  
みどり

# 食

一食生活改善推進委員会

## じゃがいもとにんじんの コーンミルク煮

寒くなるとじゃがいもの出番です。



●エネルギー 196 kcal  
●カルシウム 94 mg  
●塩分 0.6 g

## 材 料 (2~4人分)

じゃがいも ……大1個(150g)  
にんじん …… $\frac{1}{2}$ 本(50g)  
クリームコーン ……(缶詰) 100g  
牛乳 …… $\frac{3}{4}$ カップ  
バター ……10g  
こしょう ……少量  
パセリのみじん切り ……少量

## 作 り 方

- ① じゃがいもは2センチのさいの目に切って水を洗う。にんじんは1センチのさいの目に切る。
- ② 鍋に①のコーン、牛乳、バターを入れて火にかけ、沸騰弱火で約20分、ふたはせず煮、こしょうをふる。
- ③ 器に盛り、パセリをふる。